

物価高対策並びに町内事業者の経営安定を図るとともに、地域振興事業に対し、商工会と連携しながら支援してまいります。

また、社会情勢の影響による金利の上昇に対応するため、福島町中小企業融資制度による中小企業の借入に係る利子補給などについて、経済的地位の向上と事業経営の基礎となるよう支援してまいります。

令和7年度の大阪・関西万博において「SUMO EXPO 2025」が開催され、「横綱の里」として福島町も参加しております。当催事を一過性の盛り上がりとせず、「地域振興」などの持続可能な活動へ転換させるため、「世界をつなぐSUMO推進協議会」が組織され、当町も加盟していることから、関係自治体と連携を図り、「横綱の里ふくしま」として偉大な2人の横綱や女だけの相撲大会など当町の魅力をPRしてまいります。



2 次世代を育成し、つながり、学び合うまちづくり

日本の人口は平成20年をピークに、平成23年以降14年連続で減少しており、生産年齢人口が減少することにより経済や社会にひずみが生じてくる恐れが懸念されております。

当町は青函トンネル工事という特殊事情を受けて、工事終了後の急激な人口減少により厳しい状況下にあります。明るい兆しとして、多くの若者が全国各地から福島商業高校で学びたいと当町に集っております。

これまでの長い歴史の中で先人が知恵を出し合いながら努力し築き上げてきた今日の福島町を、私たちは将来の子どもたちに引き継いでいく責務があります。

このため、将来のまちづくりを担う人材の育成について、産業をはじめ教育や行政分野など、あらゆる分野が連携し、引き続き町の成長・発展に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

持続可能なまちづくりを進めていくためには、若者の人口減少および少子化対策は最重要課題として取り組む事項と認識しております。

町では、これまで各種の施策を実施してまいりましたが、人口減少に歯止めがかからない状況が続いていることから、引き続き「ふるさと暮らし応援条例」をはじめとする子育て支援策を中心に、切れ目のない対策を講じてまいります。



認定こども園については、子どもたちが快適かつ安心して保育所生活を送ることができるよう、引き続き、保護者が安心して子どもを預けられる保育環境の充実に努めながら、保護者のニーズに柔軟に対応した保育・教育サービスの提供に努めてまいります。

子育て支援センターについては、子育ての拠点施設の役割を担っており、子育てに対する不安や悩みの解決を手助けする育児相談や子どもの遊びを通じて、保護者同士の情報共有に努めるとともに、子育て支援体制の充実を図ってまいります。

学童保育については、小学生の放課後の生活を継続的に保障することにより、保護者が仕事と子育てを両立できるよう支援するとともに、成長期にある子どもたちが安全で安心して学び遊べるような生活の場の確保に努めるとともに、利用者のニーズに寄り添った運営を行ってまいります。

全道・全国からの多様な若者を受け入れ、次代を担う人材の交流・育成拠点となる「青少年交流センター・新潮学舎」については、若者の定住人口の拡大、ワーケーションの受入などによる交流人口・関係人口の拡大を図り、持続可能なまちづくりに貢献できる人材を育成してまいります。

3 福祉・医療が充実し、互いを認め合えるまちづくり

近年、少子高齢化や核家族化、ひとり暮らしの増加やライフスタイルの多様化などにより、一人ひとりが抱える生活問題が多くなってきているとともに、地域や家庭での人と人のつながりが希薄化するなど、地域を取り巻く環境が大きく変化してきております。